



2025 年度第 1 四半期 決算リリース

ロイヤル・バンク・オブ・カナダ、2025 年度第 1 四半期決算を発表

以下に示す金額はすべてカナダドル建てで、特に断りのない限り、国際会計基準第 34 号「中間財務報告」に従って提出された財務書類に基づいています。なお、便宜上記載されている日本円への換算は、1 カナダドル=103.60 円（2025 年 2 月 28 日現在の株式会社三菱 UFJ 銀行の対顧客電信物売買相場仲値）により計算されています。当行の 2025 年度第 1 四半期株主報告書ならびに補足財務情報につきましては、<http://www.rbc.com/investorrelations> および <https://www.sedarplus.com/> をご覧ください。

純利益 51 億ドル 前年比 43%増	希薄化後 EPS ¹ 3.54 ドル 前年比 42%増	合計 PCL ¹ 10.50 億ドル 貸出債権の PCL 比率 ¹ は 前期比 7 bps ¹ 上昇	ROE ¹ 16.8% 前年比 370bps 上昇	CET1 比率 ² 13.2% 規制上の所要水準を 上回る
調整後純利益 ³ 53 億ドル 前年比 29%増	調整後希薄化後 EPS ³ 3.62 ドル 前年比 27%増	合計 ACL ¹ 69 億ドル 貸出債権の ACL 比率 ¹ は 前期比 4bps 上昇	調整後 ROE ³ 17.2% 前年比 230bps 上昇	LCR ¹⁰ 128% 前四半期の 128%から 横ばい

【トロント、2025 年 2 月 27 日】ロイヤル・バンク・オブ・カナダ⁵（トロント、ニューヨーク両証券取引所のティッカーは RY）は本日、2025 年度第 1 四半期（2024 年 11 月 1 日～2025 年 1 月 31 日）の純利益が前年同期の実績から 15 億ドル（約 1,554 億円）、率にして 43% 増加し、過去最高の 51 億ドル（約 5,283 億円）になったと発表しました。希薄化後 1 株利益（EPS）は各事業セグメントの成長を反映し、3.54 ドルとこの間に 42%増えました。HSBC バンク・カナダ（HSBC カナダ）の業績⁶を組み込んだことは、純利益を 2.14 億ドル押し上げました。調整後純利益³は 53 億ドル、調整後希薄化後 EPS³は 3.62 ドルと、前年同期に比べて 29%、27%それぞれ増加しました。

当四半期の連結業績は合計貸倒引当金繰入額（PCL）が前年同期の実績から 2.37 億ドル拡大したことを反映しています。コマーシャル・バンキング、ウェルスマネジメント、およびパーソナル・バンキング各部門における引当金の拡大が主な背景で、キャピタルマーケット部門での引当金の縮小によって部分的に相殺されました。貸出債権の PCL 比率は前年度の水準から 5bps 上昇し、42bps となりました。

貸倒引当金繰入前・税引前利益³は 75 億ドルと、前年同期の実績から 23 億ドル、率にして 45%増加しました。HSBC カナダの業績の取り込みは貸倒引当金繰入前・税引前利益³を 4.51 億ドル押し上げました。HSBC カナダの業績を除くと、貸倒引当金繰入前・税引前利益³は前年同期に比べて 36%増えました。相場上昇と純販売を映したウェルスマネジメント部門の手数料ベース収益の拡大、およびコーポレート&インベストメント・バンキング、グローバルマーケット両事業の好調を原動力としたキャピタルマーケット部門の増収が主因でした。両事業は外国為替換算からも好影響を受けました。パーソナル・バンキング、コマーシャル・バンキング両部門の堅調な平均業量の伸びとパーソナル・バンキング部門の利鞘の拡大を反映した純金利収入の増加も増益に寄与しました。これらの要因は、業績改善を受けた変動報酬の増加や、事業全般でのテクノロジーおよび人的投資の継続によって一部打ち消されました。

前四半期との比較では、純利益は各事業セグメントの成長を反映し、22%増加しました。調整後純利益³は同じ期間に 18%増えました。貸倒引当金繰入前・税引前利益³は増収が経費の伸びを十二分に打ち消したため、24%増となりました。貸出債権の PCL 比率はウェルスマネジメント、キャピタルマーケット両部門における引き当ての増加などを反映し、前四半期に比べて 7bps 上昇の 42bps となりました。不良債権の PCL 比率¹は、その他サービスセクターの 1 顧客が当四半期中に正常先から不良先に移行したことなどを受け、39bps と前四半期の水準から 13bps 上昇しました。正常債権の PCL 比率は 3bps と、前四半期に比べて 6bps 低下しました。

当行の自己資本状況は相変わらず健全で、13.2%の CET1 比率²は力強い業量の伸びを支えており、普通株式配当と自社株買いを通じて 24 億ドルの資本が株主に還元されました。

¹ これらの指標の構成の説明につきましては、2025 年 1 月 31 日までの 3 カ月間に関する当行の 2025 年 2 月 26 日付の中間的な「経営陣の解説・分析」の「用語集」のセクションをご参照ください。<https://www.sedarplus.com/>にてご覧いただけます。そうした説明は本文書で援用されています。

² この比率は、金融機関監督庁（OSFI）のパーゼル 3 自己資本比率規制（CAR）ガイドラインに従い、普通株式等 Tier 1 資本（CET1）をリスク加重資産（RWA）で除して計算されています。

³ これらは GAAP に基づかない財務指標です。会計調整を含む追加の情報につきましては、本決算リリース 4～5 ページの「主要な業績指標と非 GAAP 財務指標」のセクションをご参照ください。

⁴ 流動性カバレッジ比率（LCR）は OSFI の流動性比率規制（LAR）ガイドラインに従って計算されています。さらなる詳細につきましては、当行の 2025 年度第 1 四半期株主報告書の「流動性と資金調達リスク」のセクションをご参照ください。

⁵ “we”, “us”, “our”, “the bank”（日本語では「当行」）、あるいは“RBC”という言葉は、場合に応じて、ロイヤル・バンク・オブ・カナダとその子会社を意味します。

⁶ 2024 年 3 月 28 日、当行は HSBC カナダの買収（HSBC カナダ取引）を完了しました。HSBC カナダの業績は買収した事業と顧客に関連した、収益、PCL、非金利費用、および法人所得税を反映しており、財務・流動性管理業務に関する取得資産・負債を除いた、取得資産、引受負債、および従業員を含んでいます。さらなる詳細につきましては、当行の 2025 年度第 1 四半期株主報告書の「主要な企業イベント」のセクションをご参照ください。

「RBC の第 1 四半期の業績は複雑さを増す世界において顧客の期待を上回り続けるようとする当行の決意を実証しています。第 1 四半期は事業全般で堅調な業績と顧客主導の成長を達成した一方、将来に向けた当行のポジションを構築するため、慎重なリスク管理とテクノロジーおよび人的投資を実施しました。来るべきインベスター・デー（投資家向け説明会）では、当行がいかに財務的、戦略的な強みを生かし、顧客と株主のために生み出す価値を高めようとしているかについて、情報共有を深めることを楽しみにしています」

——デブ・マックイ、ロイヤル・バンク・オブ・カナダ頭取兼最高経営責任者

2025 年度第 1 四半期と 2024 年度第 1 四半期の比較

2025 年度第 1 四半期と 2024 年度第 4 四半期の比較

財務報告ベース：

・ 純利益 51.31億ドル	↑ 43%
・ 希薄化後EPS 3.54ドル	↑ 42%
・ ROE 16.8%	↑ 370 bps
・ CET1比率 ² 13.2%	↓ 170 bps

・ 純利益 51.31億ドル	↑ 22%
・ 希薄化後EPS 3.54ドル	↑ 22%
・ ROE 16.8%	↑ 250 bps
・ CET1比率 ² 13.2%	→ 横ばい

調整後ベース³：

・ 純利益 52.54億ドル	↑ 29%
・ 希薄化後EPS 3.62ドル	↑ 27%
・ ROE 17.2%	↑ 230 bps

・ 純利益 52.54億ドル	↑ 18%
・ 希薄化後EPS 3.62ドル	↑ 18%
・ ROE 17.2%	↑ 210 bps

パーソナル・バンキング部門

純利益は 16.78 億ドルと、前年同期の実績から 3.25 億ドル、率にして 24%増加しました。HSBC カナダの決算を組み込んだことは純利益を 0.91 億ドル押し上げました。HSBC カナダの決算を除くと、純利益は、2.34 億ドル、率にして 17%増えました。利鞘の拡大や預金で 8%、融資で 4%という平均業量の伸びを反映したカナダ・パーソナル・バンキング事業の純金利収入の増加が増益を主導しました。非金利収入の増加も増益に寄与しました。これらの要因は、退職手当を含む人件費の伸びや専門家報酬の拡大、テクノロジー投資の継続などに起因する非金利費用の増加によって部分的に相殺されました。

前四半期に比べると、純利益は、0.99 億ドル、率にして 6%増えました。増益の主な原動力は、商品構成の改善を支えとする利鞘の拡大や預金で 1%、融資で 1%の平均業量の伸びを映したカナダ・パーソナル・バンキング事業の純金利収入の増加でした。

コマーシャル・バンキング部門

純利益は 7.77 億ドルと、前年同期の実績から 1.27 億ドル、率にして 20%増加しました。HSBC カナダの決算を組み込んだことは純利益を 0.73 億ドル押し上げました。HSBC カナダの決算を除くと、純利益は、0.54 億ドル、8%増えました。融資と銀行引受手形で 10%という平均業量の伸びを反映した純金利収入の増加が増益の主な牽引役となりました。増益には銀行引受手形ベースの貸し出しが中止された影響も含まれていますが、非金利収入や預金で 8%という平均業量の伸びを背景に大部分相殺されました。これらの要因は、銀行引受手形ベースの貸し出しの中止による影響を映した与信手数料など非金利収入の減少（上述の純金利収入の増加によってほぼ相殺）、および非金利費用の増加によって一部打ち消されました。

前四半期に比べると、純利益はほぼ横ばいにとどまりました。融資と銀行引受手形で 1%、預金で 1%という平均業量の伸びを反映した純金利収入の増加、および非金利収入の伸びは、一部のセクターにおける不良債権の引当金の繰り入れ増加を主因とする PCL の拡大によって相殺されました。

ウェルスマネジメント部門

純利益は 9.80 億ドルと、前年同期の実績から 3.16 億ドル、率にして 48%増加しました。相場上昇や純販売を反映した手数料ベースの顧客の資産拡大などが理由で、この要因は変動報酬の増加にもつながりました。また、前年同期の業績には米連邦預金保険公社の特別保険料のコストが含まれていました。

前四半期との比較では、純利益は、0.11 億ドル、率にして 1%増えました。手数料ベースの顧客の資産拡大や純金利収入を原動力とした増収を主に反映しました。この要因は、季節的な報酬増加を含む人件費の拡大などを映した費用の伸びや、米カリフォルニア州の山火事に関連した引当金の繰り入れを含む PCL の拡大によってほぼ打ち消されました。

インシュアランス部門

純利益は 2.72 億ドルと、前年同期の実績から 0.52 億ドル、率にして 24%増加しました。再保険解約の影響や取扱保険商品の大部分での保険金支払実績の改善による保険サービス業務の増益が主因でした。利益構成の変化を反映した税負担の減少も増益に寄与しました。この

要因は、国際財務報告基準第 17 号「保険契約」（IFRS 17）への移行を受けて投資関連動向が改善した前年同期の反動などを背景とする保険料運用実績の悪化によって一部相殺されました。

前四半期に比べると、純利益は、1.10 億ドル、率にして 68%増えました。再保険解約の影響による保険サービス業務の増益、前四半期の繰延新契約費に関連した調整に対する反動、および保険金支払実績の改善が主な増益要因でした。

キャピタルマーケット部門

純利益は 14.32 億ドルと、前年同期の実績から 2.78 億ドル、率にして 24%増加しました。コーポレート&インベストメント・バンキング、グローバルマーケット両事業の増収、ならびに外国為替換算の好影響が主に増益を牽引しました。これらの要因は、業績改善を受けた報酬の拡大、および経済協力開発機構（OECD）が主導する国際課税見直しの「第 2 の柱」に関連した法制や利益構成の変化による影響を含む税負担の増加によってある程度打ち消されました。

前四半期に比べると、純利益は、4.47 億ドル、率にして 45%増えました。大半の地域における債券、株式、為替トレーディング収益の増加を反映したグローバルマーケット事業の増収などが背景にありました。コーポレート&インベストメント・バンキングの増収も増益に寄与しました。こうした要因は、業績改善を受けた報酬の拡大、および「第 2 の柱」法制や利益構成の変化による影響を含む税負担の増加によって部分的に相殺されました。

コーポレートサポート部門

当四半期は 0.08 億ドルの純損失でした。

前四半期は 2.47 億ドルの純損失でした。税引後で 1.34 億ドルとなった HSBC カナダの取引・統合費用の影響が主因で、これは特別項目として処理されています。未配分費用も純損失の一因となりました。

前年同期は 4.59 億ドルの純損失でした。税引後で 2.18 億ドルとなった HSBC カナダの取引・統合費用の影響や、税引後で 2.07 億ドルという HSBC カナダ取引に関連した期末資本変動の管理の影響などが響きました。いずれも特別項目として処理されています。

自己資本比率、流動性、および信用の質

自己資本比率——2025 年 1 月 31 日時点では、CET1 比率⁷は 13.2%と前四半期の水準から横ばいとなりました。正味内部資本生成は（外国為替を除く）RWA の拡大によって打ち消されました。

流動性——2025 年 1 月 31 日に終了した四半期は、平均 LCR⁸が 128%で、金額に換算するとおよそ 910 億ドルの余剰になりました。これに対し、前四半期は 128%で、約 860 億ドルの余剰でした。平均 LCR⁸が前四半期の水準からほぼ横ばいにとどまった背景には、預金と資金調達の伸びが融資の伸びや証券保有、証券金融取引によっておおむね相殺されたことがありました。

2025 年 1 月 31 日時点の安定調達比率（NSFR）⁹は 115%で、金額に換算するとおよそ 1,430 億ドルの余剰になりました。これに対し、前四半期は 114%で、1,370 億ドル程度の余剰でした。NSFR⁹が前四半期に比べて上昇したのは、ホールセール資金調達の増加や、証券保有と証券金融取引に関する資金需要の減少、当行の資本ならびに預金の伸びが主因でしたが、融資の伸びによって一部打ち消されました。

信用の質

2025 年度第 1 四半期と 2024 年度第 1 四半期の比較

合計 PCL は 10.50 億ドルと、前年同期の水準から 2.37 億ドル、率にして 29%拡大しました。コマーシャル・バンキング、ウェルスマネジメント、パーソナル・バンキング各部門における引当金の繰り入れ増加などが背景にありましたが、キャピタルマーケット部門での繰り入れ減少によってある程度相殺されました。貸出債権の PCL 比率は 5bps 上昇の 42bps、不良債権の PCL 比率は 8bps 上昇の 39bps でした。

正常債権の PCL は 0.68 億ドルで、0.65 億ドル、率にして 49%縮小しました。キャピタルマーケット部門で不良先への移行が生じたことが主な原因でしたが、この要因は信用の質の低下やポートフォリオの伸びによって減殺されました。

不良債権の PCL は 9.85 億ドルと、3.00 億ドル、率にして 44%拡大しました。コマーシャル・バンキング、パーソナル・バンキング、およびキャピタルマーケット各部門における繰り入れ増加が主因でした。

⁷ この比率は OSFI のパーゼル 3 CAR ガイドラインに従い、CET1 を RWA で除して計算されています。

⁸ LCR は OSFI の LAR ガイドラインに従って計算されています。さらなる詳細につきましては、当行の 2025 年度第 1 四半期株主報告書の「流動性と資金調達リスク」のセクションをご参照ください。

⁹ NSFR は OSFI の LAR ガイドラインに従って計算されています。さらなる詳細につきましては、当行の 2025 年度第 1 四半期株主報告書の「流動性と資金調達リスク」のセクションをご参照ください。

2025 年度第 1 四半期と 2024 年度第 4 四半期の比較

合計 PCL は前四半期の実績から 2.10 億ドル、率にして 25%縮小しました。ウェルスマネジメント部門が前四半期の戻し入れから繰り入れに転じたことや、キャピタルマーケット部門での繰り入れの増加などを反映しました。貸出債権の PCL 比率は 7bps 上昇しました。不良債権の PCL 比率は 13bps 高まりました。

正常債権の PCL は、1.40 億ドル、率にして 67%縮小しました。信用の質の低下やキャピタルマーケット部門における不良先への移行の発生などが背景にありましたが、当行のマクロ経済予測の悪化やポートフォリオの伸びによってある程度打ち消されました。

不良債権の PCL は、3.45 億ドル、率にして 54%拡大しました。キャピタルマーケット、コマーシャル・バンキング、およびパーソナル・バンキング各部門での繰り入れ増加が主因でした。

主要な業績指標と非 GAAP 財務指標

業績指標

当行の連結事業および各事業セグメントの業績は、純利益や自己資本利益率（ROE）など複数の財務指標を使って測定、評価しています。ROE を含む一部の財務指標は、一般に公正妥当と認められる会計原則（GAAP）の下で意味が標準化されておらず、他の金融機関が開示する同様の指標と比較できない場合があります。

非 GAAP 財務指標

一部の非 GAAP 財務指標（非 GAAP 財務比率を含む）は、当行の継続的な経営成績をより反映しやすく、経営陣の業績判断に対する読者の理解を促進するものと考えます。これらの指標は 2025 年 1 月 31 日までの 3 カ月間の財務実績を、対応する前年の期間や 2024 年 10 月 31 日までの 3 カ月間と比較しやすくします。非 GAAP 指標は、GAAP の下で意味が標準化されておらず、他の金融機関が開示する同様の指標と比較できない場合があります。

以下は当行が経営成績の評価で使う非 GAAP 指標についての説明です。

貸倒引当金繰入前・税引前利益

貸倒引当金繰入前・税引前利益を用い、当行は持続的な利益成長を創出する自身の能力を、信用サイクルの循環的な性質に左右される信用損失を除いて評価しています。次の表は当行の報告ベースの業績を貸倒引当金繰入前・税引前利益と照合し、提示される貸倒引当金繰入前・税引前利益の計算を説明したものです。

(百万カナダドル)	下記の日付までの3カ月間		
	2025年 1月31日	2024年 10月31日	2024年 1月31日
純利益	\$ 5,131	\$ 4,222	\$ 3,582
追加: 法人所得税	1,302	993	766
追加: PCL	1,050	840	813
貸倒引当金繰入前・税引前利益 ⁽¹⁾	\$ 7,483	\$ 6,055	\$ 5,161

(1) 2025 年 1 月 31 日までの 3 カ月間につきましては、HSBC カナダの業績を除いた 70.32 億ドルの貸倒引当金繰入前・税引前利益は、74.83 億ドルの貸倒引当金繰入前・税引前利益から 2.14 億ドルの純利益、0.82 億ドルの法人所得税、および 1.55 億ドルの PCL を差し引いて計算されています。

調整後ベースの業績

以下で述べる特別項目の影響や買収関連無形資産の償却を除いた調整後ベースの業績および一部の財務指標と財務比率を提供することは、業績をそれ以前の期間と比較しやすくし、根底にある事業のトレンドに対する読者のより適切な評価を可能にするものと考えます。

すべての報告期間における当行の業績は以下の特別項目について調整されました：

- HSBC カナダの取引・統合費用。

2024 年 1 月 31 日までの 3 カ月間の当行の業績は以下の特別項目について調整されました：

- HSBC カナダ取引に関連した期末資本変動の管理。

次の表は、当行の財務報告ベースの業績を調整後ベースの業績と照合し、提示される調整項目の計算を説明したものです。以下に示す調整後ベースの業績と財務指標は、非GAAP財務指標もしくは財務比率です。

連結業績（財務報告ベースと調整後ベース）

(1株当たり金額、実数、および百分率以外の単位は百万カナダドル)	下記の日付までの3カ月間		
	2025年 1月31日	2024年 10月31日	2024年 1月31日
総収益	\$ 16,739	\$ 15,074	\$ 13,485
PCL	1,050	840	813
非金利費用	9,256	9,019	8,324
税引前利益	6,433	5,215	4,348
法人所得税	1,302	993	766
純利益	\$ 5,131	\$ 4,222	\$ 3,582
普通株主に帰属する純利益	\$ 5,011	\$ 4,128	\$ 3,522
平均普通株式数 (千株)	1,413,937	1,414,460	1,406,324
基本1株利益 (ドル)	\$ 3.54	\$ 2.92	\$ 2.50
平均希薄化後普通株式数 (千株)	1,416,502	1,416,829	1,407,641
希薄化後1株利益 (ドル)	\$ 3.54	\$ 2.91	\$ 2.50
ROE	16.8%	14.3%	13.1%
実効法人所得税率	20.2%	19.0%	17.6%
純利益 (税引前) に影響を与える調整項目合計	\$ 165	\$ 298	\$ 631
特別項目: HSBCカナダの取引・統合費用 (1), (2)	12	177	265
特別項目: HSBCカナダ取引に関連した期末資本変動の管理 (1)	-	-	286
買収関連無形資産の償却 (3)	153	121	80
純利益に影響を与える調整項目の法人所得税合計	\$ 42	\$ 81	\$ 147
特別項目: HSBCカナダの取引・統合費用 (1)	6	43	47
特別項目: HSBCカナダ取引に関連した期末資本変動の管理(1)	-	-	79
買収関連無形資産の償却 (3)	36	38	21
調整後ベースの業績 (4)			
税引前利益 – 調整後	\$ 6,598	\$ 5,513	\$ 4,979
法人所得税 – 調整後	1,344	1,074	913
純利益 – 調整後	5,254	4,439	4,066
普通株主に帰属する純利益 – 調整後	5,134	4,345	4,006
平均普通株式数 (千株)	1,413,937	1,414,460	1,406,324
基本1株利益 (ドル) – 調整後 (4)	\$ 3.63	\$ 3.07	\$ 2.85
平均希薄化後普通株式数 (千株)	1,416,502	1,416,829	1,407,641
希薄化後1株利益 (ドル) – 調整後 (4)	\$ 3.62	\$ 3.07	\$ 2.85
ROE – 調整後 (4)	17.2%	15.1%	14.9%
実効法人所得税率 – 調整後 (4)	20.4%	19.5%	18.3%

(1) これらの金額はコーポレートサポート部門で認識されています。
(2) 2025年1月31日時点では、HSBCカナダの取引・統合費用の累計額（税引前）は14億ドルでした。
(3) 買収関連無形資産の償却（ソフトウェアの償却を除く）、ならびに、のれんの減損による影響を表しています。
(4) これらの指標の構成の説明につきましては、2025年1月31日までの3カ月間に関する当行の2025年2月26日付の中間的な「経営陣の議論と分析」の用語集」のセクションをご参照ください。 <https://www.sedarplus.com/> にてご覧いただけます。そうした説明は本文書で援用されています。

ROEなどの主要な業績指標と非GAAP財務指標および財務比率に関する追加の情報は、当行の2025年度第1四半期株主報告書の「主要な業績指標と非GAAP財務指標」のセクションをご覧ください。

本件に関する問い合わせ先： 電話 03 (4577) 7000 コンプライアンス部